

IV 事業概要

4 連携事業

(1) 共催事業

② きのこ展

(ア) 期 間 平成 30 年 9 月 29 日 (土) ～9 月 30 日 (日)

(イ) 会 場 仙台市科学館 3F エントランスホール

(ウ) 目 的

宮城県内に生育するキノコの実物を鑑賞する場を市民に提供し、キノコの分類に関する知識を広めることを目的とする。

(エ) 展示内容

仙台周辺の自生のキノコ類を対象として採集した自生キノコを、科や属ごとに分類、整理して展示した。展示に関しては、キノコの鮮度を保つように常に展示の入れ替えを行った。種名・属名・科名の名札を作成し、説明を行う解説員をおいた。また、仙台キノコ同好会 50 周年記念イベントとして「きのこ絵画コンクール」を実施した。

会場の運営にあたっては、仙台キノコ同好会の会員が常駐し、展示の説明・会場整理、キノコの鑑定にあたった。

市民の関心が高いキノコの放射線値について、東北大学と協力して調査している情報を開示した。東北大学木野康志氏による放射線値に関する講演会を行った。

- ・キノコ生体の展示
- ・栽培キノコの展示
- ・キノコの鑑定会
- ・キノコ絵画コンクール
- ・キノコのVTR放映
- ・キノコ写真の展示
- ・キッズコーナー

(オ) 実 績

夏の猛暑などの影響から、秋のキノコの発生が早まったが、会員の方の精力的な採集により採集キノコ 257 種、栽培キノコ 10 種、計 267 種となり、昨年を上回る展示数となった。市民の鑑定、相談件数も 77 件と昨年を上回った。きのこ絵画コンクールの実施や、キノコによる食中毒報道等によりキノコへの関心の高まりが感じられた。最近の傾向として、子ども、若い家族、キノコ女子の来場者が目立つが、今年もその傾向が強まり、メモをとったり、カメラで撮影したりと、いつもより熱心な来場者が多かった。入場者数は 2 日間で 2,705 名であった。木野准教授による講演会にも、活発な質問が出され、キノコと放射能に関する情報提供が効果的に行われた。



会場の様子



講演会の様子